

新聞労働連

発行日 2020年2月1日

日本新聞労働組合連合
東京都文京区本郷2丁目17-17 井門本郷ビル6階
電話 03(5842)2201
FAX 03(5842)2250
ホームページ http://www.shimbunoren.or.jp/
アドレッシングサービス(年間購読送料共2000円)組合員の購読料は組合費に含めて徴収しています

産別スト権投票の結果

産別スト権投票は賛成多数で可決された。
投票結果は次の通り(代議員総数は195)

賛成	121
反対	5
白票	0

総配布枚数126

誰もが納得できる賃金へ

「デジタル戦略の検証」も要求



新聞労働連は1月22〜23日、東京都内で第135回20春闘臨時大会を開き、「誰もが働きやすい賃金要求」「デジタル戦略の検証」などを盛り込んだ春闘方針を採択、春闘要求実現に向けた「産別別統一スト権」を確立した。神戸新聞・デイリースポーツの系列会社

臨時大会で春闘方針決定

デイリースポーツが加盟

「誰もが働きやすい賃金要求」「デジタル戦略の検証」などを盛り込んだ春闘方針を採択、春闘要求実現に向けた「産別別統一スト権」を確立した。神戸新聞・デイリースポーツの系列会社



副委員長にスポンニチ・齋木氏

スポーツニッポン労働組の齋木氏です。2012年4月に入社し、一貫して整理部でスポーツ面などの組版を担っていました。現在、単組副委員長も務めています。単組では会社との団体交渉や組合員の意見集約などに努めています。組員の意見を会社に伝え、さまざまな交渉によって少しでも働きやすい環境になるよう活動してきました。本部副委員長としても同じように努力していこうと思います。

山陽争議 全面解決へ前進

9日に岡山で報告集会

労組の運動方針を理由に山陽新聞労組の正副委員長を印刷職場から排除し、異端となった労担(当時)名「見せしめ人事」の不当労働行為と認定した岡山県労委の救済命令から2カ月。1月29日の団交で、争議の発端となった労担(当時)名「見せしめ人事」の不当労働行為の人権侵害文書の無効性を確認し、2月9日に岡山市で開催する勝利報告集会を目前に労使の解決交渉が大詰めを迎えている。問題の文書は2018年

3月、当時の労担が山陽労組に示した。正副委員長が印刷の仕事を続けるために必要な関連会社への出向を認めない理由として、印刷部門の別会社化に反対する山陽労組の運動方針を明示した。

この文書の「出向先会社に対する企業秩序遵守及び職務専念義務違反等の遵守を期待することはできない」との記述を、山陽労組は正副委員長の尊厳を傷つける人権侵害であると問題視。29日の団交では、大

た争議、その後の社との解決交渉の経過を説明した。長崎市幹部(当時)から取材中に性暴力を受けたとして、現役の女性記者が市に對し謝罪などを求めている裁判について、山口栄治争議・弾圧対策部長(長崎労組)が、息の長い支援を要望。正当な記事に対し、不当な訴訟を提起され、毅然として闘う神奈川労組の石橋学記者も登壇、同労組の長谷川由希委員長が支援を呼び掛けた。

た争議、その後の社との解決交渉の経過を説明した。長崎市幹部(当時)から取材中に性暴力を受けたとして、現役の女性記者が市に對し謝罪などを求めている裁判について、山口栄治争議・弾圧対策部長(長崎労組)が、息の長い支援を要望。正当な記事に対し、不当な訴訟を提起され、毅然として闘う神奈川労組の石橋学記者も登壇、同労組の長谷川由希委員長が支援を呼び掛けた。

た争議、その後の社との解決交渉の経過を説明した。長崎市幹部(当時)から取材中に性暴力を受けたとして、現役の女性記者が市に對し謝罪などを求めている裁判について、山口栄治争議・弾圧対策部長(長崎労組)が、息の長い支援を要望。正当な記事に対し、不当な訴訟を提起され、毅然として闘う神奈川労組の石橋学記者も登壇、同労組の長谷川由希委員長が支援を呼び掛けた。

た争議、その後の社との解決交渉の経過を説明した。長崎市幹部(当時)から取材中に性暴力を受けたとして、現役の女性記者が市に對し謝罪などを求めている裁判について、山口栄治争議・弾圧対策部長(長崎労組)が、息の長い支援を要望。正当な記事に対し、不当な訴訟を提起され、毅然として闘う神奈川労組の石橋学記者も登壇、同労組の長谷川由希委員長が支援を呼び掛けた。

た争議、その後の社との解決交渉の経過を説明した。長崎市幹部(当時)から取材中に性暴力を受けたとして、現役の女性記者が市に對し謝罪などを求めている裁判について、山口栄治争議・弾圧対策部長(長崎労組)が、息の長い支援を要望。正当な記事に対し、不当な訴訟を提起され、毅然として闘う神奈川労組の石橋学記者も登壇、同労組の長谷川由希委員長が支援を呼び掛けた。

た争議、その後の社との解決交渉の経過を説明した。長崎市幹部(当時)から取材中に性暴力を受けたとして、現役の女性記者が市に對し謝罪などを求めている裁判について、山口栄治争議・弾圧対策部長(長崎労組)が、息の長い支援を要望。正当な記事に対し、不当な訴訟を提起され、毅然として闘う神奈川労組の石橋学記者も登壇、同労組の長谷川由希委員長が支援を呼び掛けた。

た争議、その後の社との解決交渉の経過を説明した。長崎市幹部(当時)から取材中に性暴力を受けたとして、現役の女性記者が市に對し謝罪などを求めている裁判について、山口栄治争議・弾圧対策部長(長崎労組)が、息の長い支援を要望。正当な記事に対し、不当な訴訟を提起され、毅然として闘う神奈川労組の石橋学記者も登壇、同労組の長谷川由希委員長が支援を呼び掛けた。

た争議、その後の社との解決交渉の経過を説明した。長崎市幹部(当時)から取材中に性暴力を受けたとして、現役の女性記者が市に對し謝罪などを求めている裁判について、山口栄治争議・弾圧対策部長(長崎労組)が、息の長い支援を要望。正当な記事に対し、不当な訴訟を提起され、毅然として闘う神奈川労組の石橋学記者も登壇、同労組の長谷川由希委員長が支援を呼び掛けた。

70周年PTアンケート 「将来性ない」が8割

働き方・体質見直しが急務

新聞労働連70周年プロジェクトチームが昨年10〜12月に加盟単組の組合員を対象に実施した「新聞・通信社の働き方・将来性に関するアンケート」の結果がまとまった。「新聞産業に将来性を感じない」という回答が8割を占めるなど、業界の体質と働き方の見直しが急務であることが浮き彫りになった。

アンケートは「働き方」「ダイバーシティ・キャリア形成」「ハラスメント」「新聞産業の未来」の4本柱。有効回答は1236件(男性807、女性400、その他29)で過去の労連調査と比べて女性の回答数が多かった。

「働き方」では、「これまでに働き方が厳しいことを理由に仕事を辞めたい」と思ったことがあるが45.7%、「いまの働き方で10年後も働き続けられない」が52.2%。やりがいがなければ続かず、まともな暮らしができる労働環境が必要だということを示す顕著な数字になった。1日平均の労働時間が「過労死ライン」に相当する「12時間超」も8%いた。自由記述では、長時間労働が美化されている業界の体質を指摘する意見が目立った。

月平均の休み日数は「8〜10日」が計68.7%だったが、「出勤しても記録をつけられない帳尻あわせがらみ」「休日自宅持ち帰って仕事をしている」といった実態との乖離も多く寄せられた。会社の「働き方改革」の方針に「不十分だ」は73.6%。「十分だ」は11.2%を大きく上回った。「ダイバーシティ・キャリア形成」では、女性の約6割が「賃金・待遇や働く上で、性別による差別がある」と回答。男性の約4割と大きな差があった。女性管理職が少ない現状が女性キャリア形成における不目立った。

「将来性」については、「新聞産業の将来性を妨げている要因」で6割近くが「過度な前例踏襲の横行」「顧客目線の欠如」「デジタルへの無理解」と回答。新聞・通信社の組織の硬直化への不満が強く示される結果になった。デジタルの将来性に対する期待は高い一方で、自由記述では、経営陣のデジタル展開への不信も目立った。

育児中の賃金アンケート

春闘重点項目 35単組から回答

新聞労働連は春闘方針で掲げた子育てしながら働きやすい環境を目指すため、「育児中の記者等の働き方と基準外賃金アンケート」を実施した。

育児・介護の短時間勤務制度(所定労働時間より短縮する)について、利用できる期間と給与▽所定労働時間は勤務した上で、育児のために時間外勤務の制限を申し出ている社員に対して「残業代相当賃金」の支給の有無・方法などを尋ね、35単組から回答があった。

アンケートを呼びかけた岡林佐和・特別中執(朝日労組)は臨時大会で「問題の本質は、24時間いつでも働けることがデフォルトになっていること。長時間働けない人は『時短』扱いとなり、その間にグランド・ギャップが問題だ」と指摘。朝日、読売、道新で進む業務外手当の段階的支給を先例として紹介した。

働き方・経営体質

特別報告① 山陽争議

勝利命令 後押しのおかげ



田淵 (山陽労組)



石川 (中国地連)

山陽労組(田淵信吾) 2018年4月、山陽新聞労組の正副委員長の不当異職種配転の撤回を求めて

救済申し立てした事件で、岡山県労委は11月29日、組合の運動方針を理由に2人を印刷職場から排除したの

の低下による業績の低下、業務の混乱を来し、企業秩序遵守は期待できない」という主張についても、審問での経営側証人の証言から、2人はこれまで勤務で

社がこのような言論を封殺する人事をしたことが許せなかった。これを認めてしま

萎縮させるという意味で「見せしめ人事」と断定した。我々は新聞労連の労働者にと

対して性暴力をふるった。長崎市長が事情聴取して問

た。全国から傍聴支援に来ていた。そのおかげで、原告も少

この裁判は、全国でセクハラや性暴力に苦しんで

対応は(部長ではなく)課長クラスがしている。記者の取材実態について原告側

特別報告② 長崎市性暴力訴訟

みんなの共感 原告に勇気



山口 (長崎労組)

長崎新聞労組(山口栄治) 2007年7月に、長崎市の原爆被爆対策部長が夜

対して性暴力をふるった。長崎市長が事情聴取して問

た。全国から傍聴支援に来ていた。そのおかげで、原告も少

この裁判は、全国でセクハラや性暴力に苦しんで

対応は(部長ではなく)課長クラスがしている。記者の取材実態について原告側

「怠慢経営 追及続ける」「異職種配転に対峙」



戒井 (宮日労組)



保坂 (埼玉労組)



斎藤 (UPC)



辰巳 (建設工業労組)



高松 (青女部長)

宮日労組(戒井聖貴)

組合差別と闘い、勝利命令を勝ち取った山陽労組に敬意を表する。新聞労連の「よってたかっ

UPC(斎藤礼子) 特派員協会は記者の個人加盟組織で、運営母体の理

建設工業労組(辰巳裕史) 新聞労連ジャーナリズム大賞に「専門紙賞」設置を

全国学習集会を開催する。各単組の青女部長に参加の

声掛けをしてほしい。今回の学習集会のなか

アンケートについて月間書記長に解説してもらう予定

実りのある学習の機会となると思う。ぜひ参加をお願いしたい。

春闘はじめ経済闘争は、交渉経過や回答結果の共有

こうした取り組みの一つ一つの積み重ねが勝利につながっている。2月9日の勝利報告集会には、ぜひ全国から参加し、勝利を喜び

社に交渉で役員の引責辞任も約束したがうやむやに。今後の経営改革も全く開示

また、新聞労連内だけでなく、出版労連、全印総連などに加盟の専門紙労組にも

東京新聞労組(鈴木正二) 一足早く派遣社員の春闘要求を出した。待遇改善の

に戻すことを要求する。一方、東京中日スポーツの原稿料契約の記者を中日

16日に第3回、28日に第4回交渉を行った。社側は

「個人事業主だ」「フリーライターだ」との不当な主張

この日までに要求を提出する。①第1次統一行動日：要求

その際、各組合の旗を持って集まってほしい。皆で勝利を祝う集会を盛り上げたいと思っ

労働者代表を立て、な

また、新聞労連内だけでなく、出版労連、全印総連などに加盟の専門紙労組にも

また、新聞労連内だけでなく、出版労連、全印総連などに加盟の専門紙労組にも

中日新聞社が問題性認める

中日新聞社の偽装請負問題で、東京新聞労組は1月

②第2次統一行動日：回答

⑦第7次統一行動日：4月8日(水)～9日(木)

その際、各組合の旗を持って集まってほしい。皆で勝利を祝う集会を盛り上げたいと思っ

労働者代表を立て、な

また、新聞労連内だけでなく、出版労連、全印総連などに加盟の専門紙労組にも

また、新聞労連内だけでなく、出版労連、全印総連などに加盟の専門紙労組にも

中日新聞社が問題性認める

中日新聞社の偽装請負問題で、東京新聞労組は1月

②第2次統一行動日：回答

⑦第7次統一行動日：4月8日(水)～9日(木)

20春闘行動日程

2020春闘統一行動日 各単組の例年の交渉スケジュールを基準に左記の通り設定します。この方は、加盟単組が連携して交渉を構え、産別として統一した春闘を目指すものです。

- ①第1次統一行動日：要求提出日 2月27日(木)
- ②第2次統一行動日：回答日 3月5日(木)
- ③第3次統一行動日：3月12日(木)
- ④第4次統一行動日：3月19日(木)
- ⑤第5次統一行動日：3月25日(水)～27日(金)
- ⑥第6次統一行動日：4月2日(木)～4月3日(金)
- ⑦第7次統一行動日：4月8日(水)～9日(木)

2019年度ジャーナリズム大賞は毎日

2019年度新聞労連ジャーナリズム大賞の表彰式が22日、都内で開かれた。選考委員を刷新し、男女同数にした今回は、25作品の応募があり、毎日新聞NHK取材班の「NHKかんぼ不正報道への圧力に関する一連の報道」が大賞が贈られた。正田桂一郎賞には「家族のかたち」里親家庭の今(長崎新聞・熊本陽平記者)▽Yナンバー白タク問題を巡る一連の報道(沖繩タイムス・比嘉太一、西倉悟朗両記者)の2作品が選ばれた。新設の専門紙賞は該当がなかった。

表彰式では、ジェンター関連のキャンペーン報道で特別賞を受賞した松島佳子特別中執(神奈川)が「3月8日の国際女性デーに全国の新聞社と一緒に記事を発信していきます」と呼びかけ。選考委員の浜田敏子さんも「社会を変えるきっかけになる」とエールを送った。



選考委総評

8作品だった昨年から大幅に増え、第1回以来の多さとなる25作品の応募があった。

イギリスのアシオ配備問題をめぐる秋田魁新報のスクープ報道や、旧優生保護法に関する報道で新聞協会賞を受賞した後も、現在の問題に引きつけて継続的に取り組んでいる毎日新聞のキャンペーン報道「優生社会を問う」などの力作がそろっていた。ウイグルでの弾圧の実態に迫った北海道



新しい新聞ジャーナリズムを重視

【大賞】毎日・小林祥晃記者 不正販売問題をいち早く放送した『クローズアップ現代+』の皆さんへの敬意や、悔しさへの共感に突き動かされて取材を進めてきた。問題の根底には、政治の影響を受けやすいNHKの体質がある。きちっと取材を続けていきたい。

【正田賞】長崎・熊本陽平記者 子どもが実際に生かして書けない部分もあるが、里親の葛藤や失敗も書くことでできるだけリアルなところが伝わるように意識した。

【優秀賞】キャンペーン報道「にほんでいぐるぐ外国からきた子どもたち」(毎日)▽改正ドローン規制法など、権力の暴走をたたく話をきっかけに調査報道を一連の報道(沖タイ)

【特別賞】国際女性デーを中心に展開する「Dear Girls」の一連の報道(朝日新聞)▽「#metoo #you too」(神奈川新聞)

朝日・三島あずさ記者 ジェンターギャップ指数が悪化する状況を変えていくには、取材者であり発信者である私たち自身が変わっていくことが大事。性別を

毎日・奥山はるな記者 取材をした人たちは言葉の壁から自分で声を上げることが難しく、教育を受けられず、選挙権もないという人たちがいた。「記者が救わなければ拾えない声を丁寧な拾った」と評価されたのは何より光栄です。

沖タイ・伊集竜太郎記者 や名古屋地裁岡崎支部での性暴力の「無罪」判決を掘り起こした毎日新聞と共同通信の記事など、ジェンターに関する作品の応募が多かった。編集局全体に理解があれば、より充実した報道にできると思われるものもあった。「男性優位」のメディア業界において、どのように改善していけばいいのか、それぞれ現場で考えを深めて欲しい。また、スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリさんの問題提起が注目を集めるなか、環境問題に関連した応募作品は少なかつた。多様なテーマへの取り組みを期待したい。

【特別賞】国際女性デーを中心に展開する「Dear Girls」の一連の報道(朝日新聞)▽「#metoo #you too」(神奈川新聞)

朝日・三島あずさ記者 ジェンターギャップ指数が悪化する状況を変えていくには、取材者であり発信者である私たち自身が変わっていくことが大事。性別を

理由に選択肢を狭められたり、過度なプレッシャーをかけられたりしない社会にしていきたい。メディアができることはまだまだある。

神奈川・佐藤百合記者 連載のタイトルには「誰もが当事者だ」という願いを込めた。ジェンターは女性だけの問題ではない。男らしさを押しつけられて苦しんでいる男性もいると思う。誰もが自分らしく尊厳をもって生きられる社会をつくりたい。

新聞労連では、1995年7月に、私から北村さんへ委員長職をバトンタッチした。引き継ぎはあつんの呼吸であつという間に済んだ。副委員長が在阪以外は未選出で迷惑をかけたが、逆に、同年5月ソウルでの新聞労連140人と韓国言論労連90人による「戦後50年日韓対話」の取り組みを、彼が高く評価してくれたことを覚えている。

北村執行部は、新聞労連大賞の創設、報道被害救済窓口の開設など多くの仕事をしたが、中でも「新聞人の良心宣言」の策定と発表は、日本におけるメディアの内部的自由への大きな一歩として、ジャーナリズムの世界で今も高く評価されている。いい仕事だった。逝くのが少し早すぎる。しかし、嘆いても始まらない。またいつか、そちらで会おう。

全国書記会議

調査ツール活用法学ぶ

書記局の防災対策検討

新聞労連は1月24、25の両日、東京都内で全国書記会議を開き、全国から21単組・支部26人が参加。会議では「調査ツールの活用を学ぶ、書記局の防

新聞労連は1月24、25の両日、東京都内で全国書記会議を開き、全国から21単組・支部26人が参加。会議では「調査ツールの活用を学ぶ、書記局の防

【大賞】毎日・小林祥晃記者 不正販売問題をいち早く放送した『クローズアップ現代+』の皆さんへの敬意や、悔しさへの共感に突き動かされて取材を進めてきた。問題の根底には、政治の影響を受けやすいNHKの体質がある。きちっと取材を続けていきたい。

【正田賞】長崎・熊本陽平記者 子どもが実際に生かして書けない部分もあるが、里親の葛藤や失敗も書くことでできるだけリアルなところが伝わるように意識した。

【優秀賞】キャンペーン報道「にほんでいぐるぐ外国からきた子どもたち」(毎日)▽改正ドローン規制法など、権力の暴走をたたく話をきっかけに調査報道を一連の報道(沖タイ)

【特別賞】国際女性デーを中心に展開する「Dear Girls」の一連の報道(朝日新聞)▽「#metoo #you too」(神奈川新聞)

朝日・三島あずさ記者 ジェンターギャップ指数が悪化する状況を変えていくには、取材者であり発信者である私たち自身が変わっていくことが大事。性別を

理由に選択肢を狭められたり、過度なプレッシャーをかけられたりしない社会にしていきたい。メディアができることはまだまだある。

神奈川・佐藤百合記者 連載のタイトルには「誰もが当事者だ」という願いを込めた。ジェンターは女性だけの問題ではない。男らしさを押しつけられて苦しんでいる男性もいると思う。誰もが自分らしく尊厳をもって生きられる社会をつくりたい。

などを歴任。報道の一線を駆け抜けた生涯だった。初めて出会ったのは浦和支局時代だ。彼は毎日新聞、私は朝日新聞の教育担当記者として。北村さんは会社人間では全くなく、率直で、照れたような笑顔が人懐こい青年だった。のちにジョン・マガオさんに風貌が替わっても、人間としての中身は全然変わらなかった。

その中身とは、権威や権力にたむかす、いつも劣勢な人に肩入れし、自分の良心に忠実に生きる。そういう生き方だったように私は思う。

【特別賞】国際女性デーを中心に展開する「Dear Girls」の一連の報道(朝日新聞)▽「#metoo #you too」(神奈川新聞)

朝日・三島あずさ記者 ジェンターギャップ指数が悪化する状況を変えていくには、取材者であり発信者である私たち自身が変わっていくことが大事。性別を

理由に選択肢を狭められたり、過度なプレッシャーをかけられたりしない社会にしていきたい。メディアができることはまだまだある。

神奈川・佐藤百合記者 連載のタイトルには「誰もが当事者だ」という願いを込めた。ジェンターは女性だけの問題ではない。男らしさを押しつけられて苦しんでいる男性もいると思う。誰もが自分らしく尊厳をもって生きられる社会をつくりたい。

【特別賞】国際女性デーを中心に展開する「Dear Girls」の一連の報道(朝日新聞)▽「#metoo #you too」(神奈川新聞)

朝日・三島あずさ記者 ジェンターギャップ指数が悪化する状況を変えていくには、取材者であり発信者である私たち自身が変わっていくことが大事。性別を

理由に選択肢を狭められたり、過度なプレッシャーをかけられたりしない社会にしていきたい。メディアができることはまだまだある。

神奈川・佐藤百合記者 連載のタイトルには「誰もが当事者だ」という願いを込めた。ジェンターは女性だけの問題ではない。男らしさを押しつけられて苦しんでいる男性もいると思う。誰もが自分らしく尊厳をもって生きられる社会をつくりたい。

【特別賞】国際女性デーを中心に展開する「Dear Girls」の一連の報道(朝日新聞)▽「#metoo #you too」(神奈川新聞)

朝日・三島あずさ記者 ジェンターギャップ指数が悪化する状況を変えていくには、取材者であり発信者である私たち自身が変わっていくことが大事。性別を

理由に選択肢を狭められたり、過度なプレッシャーをかけられたりしない社会にしていきたい。メディアができることはまだまだある。

神奈川・佐藤百合記者 連載のタイトルには「誰もが当事者だ」という願いを込めた。ジェンターは女性だけの問題ではない。男らしさを押しつけられて苦しんでいる男性もいると思う。誰もが自分らしく尊厳をもって生きられる社会をつくりたい。

【特別賞】国際女性デーを中心に展開する「Dear Girls」の一連の報道(朝日新聞)▽「#metoo #you too」(神奈川新聞)

朝日・三島あずさ記者 ジェンターギャップ指数が悪化する状況を変えていくには、取材者であり発信者である私たち自身が変わっていくことが大事。性別を

理由に選択肢を狭められたり、過度なプレッシャーをかけられたりしない社会にしていきたい。メディアができることはまだまだある。

神奈川・佐藤百合記者 連載のタイトルには「誰もが当事者だ」という願いを込めた。ジェンターは女性だけの問題ではない。男らしさを押しつけられて苦しんでいる男性もいると思う。誰もが自分らしく尊厳をもって生きられる社会をつくりたい。

【特別賞】国際女性デーを中心に展開する「Dear Girls」の一連の報道(朝日新聞)▽「#metoo #you too」(神奈川新聞)

朝日・三島あずさ記者 ジェンターギャップ指数が悪化する状況を変えていくには、取材者であり発信者である私たち自身が変わっていくことが大事。性別を

理由に選択肢を狭められたり、過度なプレッシャーをかけられたりしない社会にしていきたい。メディアができることはまだまだある。

神奈川・佐藤百合記者 連載のタイトルには「誰もが当事者だ」という願いを込めた。ジェンターは女性だけの問題ではない。男らしさを押しつけられて苦しんでいる男性もいると思う。誰もが自分らしく尊厳をもって生きられる社会をつくりたい。

理由に選択肢を狭められたり、過度なプレッシャーをかけられたりしない社会にしていきたい。メディアができることはまだまだある。

神奈川・佐藤百合記者 連載のタイトルには「誰もが当事者だ」という願いを込めた。ジェンターは女性だけの問題ではない。男らしさを押しつけられて苦しんでいる男性もいると思う。誰もが自分らしく尊厳をもって生きられる社会をつくりたい。